

経営学部 経営学科

今井 斉 先生

長年、アメリカの経営管理を研究してきた先生。今は経営に関わる人間の教養にも注目しているのだとか。「社会や世界、地球のことを考えられる教養がなければ、現代の企業経営は成り立ちません。経営者の道徳観によって企業は変わります。学生には会社が間違ったことをしたら、それを指摘できる人間になってほしいですね」。

仕事を選ぶとき大切なのは
お金か、やりがいかな。
それが問題だ。

人間を追いつめたのは
効率を求めた
超単純作業。

企業の問題は、
人間の問題であり
社会の問題なのだ。

皆さんに質問です。もし働くなら、給料さえもらえれば仕事にやりがいはいらない？それとも、やりがいのない仕事なら給料が高くてもお断り？考え方はそれぞれ違うと思いますが、その一つの答えが次の例です。20世紀初頭、アメリカの自動車会社では効率を重視して大量生産方式を導入しました。しかし、1分でもできるような単純作業を繰り返させたことで、労働者は働く意欲を喪失。すぐに仕事を辞める人が続出し、生産性も低下してしまいました。これではいけないと考えたのが、日本のあの自動車会社。現場の人に改善策を提案させ、仕事へのモチベーションを高める仕組みを取り入れたというわけです。

このように企業の経営管理には、人間が大きな影響を与えます。そこで私は人間の能力を最大限に発揮させる組織とはどういうものなのかを探究し、そのアプローチ方法として歴史研究も併せて行っています。経営管理の方法は時代によって変わるもの。その時代の経営管理の在り方がどうだったのか、歴史を学ぶとよく見えてくるからです。バブル崩壊後、少しでも利益を出すために人件費を削るブラック企業が増え、新たな貧困層が生まれたように、企業の問題は社会の問題に直結しています。より良い経営管理の方法を突き詰めていけば、きっと社会を良くすることに繋がると、そう私は信じているんです。

私の マストアイテム

海外研修

私にとってアメリカ留学が自分を形作るマストな経験になったので、学生にも海外経験を勧めたいです。大学院では留学生と一緒にアジアの企業を訪問。発展のプロセスや原動力など、現地でご見えてくるものがあるんですよ。



※写真は韓国のサムスン電子訪問時のもの

